日米

THE JAPANESE AMERICAN
PUBLISHED DAILY AT 650 ELLIS STREET, SAN FRANCISCO, CALIFORNIA. PHONE PROSPECT 238
ENTERED AT S. F. POST OFFICE AS SECOND CLASS MATTER.
K. ABIKO, EDITOR & PROP.
SUBSCRIPTION RATES IN ADVANCE
DAILY.....ONE YEAR..... $11.00
DAILY.....SIX MONTHS..... 6.00
DAILY.....ONE MONTH 1.00
SINGLE COPIES ..... 5 CENTS
BRANCHES
DENVER, FRESNO, LOS ANGELES, NEW YORK, OAKLAND, OGDEN, PORTLAND, SACRAMENTO, STOCKTON, SAN JOSE, SALT LAKE, SEATTLE, VACAVILLE, WATSONVILLE.

日米

新協約說

豫想外の成績

は一時中止し、十一月總選擧後に至り、重ねて再開すべきが、國務省當局も日本大使館側も共に、局面を樂觀し、双方に滿足を新條約協定せられ、十二月召集さるゝ議會上院の批准を求む事となるべしといふ。此情報が如何なる程度まで信用し得るものなりや不明なるも、新條約協定の運びにまで漕ぎつけ得べきとすれば、現下の猛烈なる政爭期を終るまで暫らく交渉を中止するを適當なりとすべし。何となれば此交渉も政爭に利用せられ、政府當局も之が爲めに牽制されるべき虞あり、交渉の進行圓滿を缺くこと無しと躊躇し得ざるを得ざるべし。唯問題は如何なる新協約が協定の運びに在るかといふ點なるが、之に就き右の情報は『在米日本人の權利を明確にし、日本移民を一層制限する』なりと傳ふ。日本移民を一層制限するといふことは、現行紳士協約の內容を一層緊縮することを意味するもの、如何なる程度まで緊縮するに日本政府が同意せんとするや不明瞭なれど、現在米國に在る日本人の全部の再渡航を、妻子同伴入國又は呼び寄せの自由とは絕對に保留せざるべからず、學生、實業家、視察旅行者其他米國移民法の一般に無制限入國を許し居る種類の自由入國も無論保留せざる可からず。若し此最小限度の範圍內まで手を着けらるゝ事ならば、在米日本人は加州土地法以上の打擊を蒙るべきを以て斷じて之れ以上讓歩すべきに非ず。又は紳士協約が新協約に書き換へられ、日本の移民自制は米國の制限して日本の大損失なるは勿論にて國民は之を以て屈辱的なりと反對すべしと雖も、交換的に確信せらるゝ在米邦人の權利にして大ならば、體面上の損失は始く忍ばざる可からざらん。然かも『在米日本人の權利を明確にす』といふ其權利とは如何なるものなるか、之れ問題の中心點なり當面の問題は加州に於ける日本人の土地所有及び賃借權を、歐洲より來れる諸外國人と同樣に確保し得るや否やにて、若し此權利にして確保し得るになれば、併せて一九一三年の土地法の未解決懸案をも滿足に解決し得る譯なり。然かも在米日本人の權利とは、人を全體として取扱ふべき新協約にて取扱ふべき譯に行かず、各州全體を蔽ふものなるや可からざれば、矢張り概括的に農、商、工、漁總ての產業生業等に於て日本人は他の最惠國民と平等なる權利及び特權を享有すと規定し得るならば、其の大なる成功なり。而して此協約が假りに協定されて上院に提出されたりとせば、加州其他太平洋岸の諸州より猛烈なる反對の起るべきを豫期せざる可からず。何となれば加州は其面上氏に泥土を塗られたりと思惟すべきは少なくとも加州に同情して、オレゴン、ワシントン二州なるも、加州に同情して、其進退を共にすべければなり。更に猛烈なる排日決議を爲した在郷軍人團其他排日諸團體は上院に對し批准を拒むべき運動を開始するならん。全體として協約が協定の運びに在るかといふ點なるが、之に就き右の情報は『在米日本人の權利を明確にし、日本移民を一層制限する』なりと傳ふ。日本移民を一層制限するといふことは、現行紳士協約の內容を一層緊縮することを意味するもの、如何なる程度まで緊縮するに日本政府が同意せんとするや不明瞭なれど、現在米國に在る日本人の全部の再渡航を、妻子同伴入國又は呼び寄せの自由とは絕對に保留せざるべからず、學生、實業家、視察旅行者其他米國移民法の一般に無制限入國を許し居る種類の自由入國も無論保留せざる可からず。若し此最小限度の範圍內まで手を着けらるゝ事ならば、在米日本人は加州土地法以上の打擊を蒙るべきを以て斷じて之れ以上讓歩すべきに非ず。又は紳士協約が新協約に書き換へられ、日本の移民自制は米國の制限して日本の大損失なるは勿論にて國民は之を以て屈辱的なりと反對すべしと雖も、交換的に確信せらるゝ在米邦人の權利にして大ならば、體面上の損失は始く忍ばざる可からざらん。然かも『在米日本人の權利を明確にす』といふ其權利とは如何なるものなるか、之れ問題の中心點なり當面の問題は加州に於ける日本人の土地所有及び賃借權を、歐洲より來れる諸外國人と同樣に確保し得るや否やにて、若し此權利にして確保し得るになれば、併せて一九一三年の土地

日米當局局面樂觀

國務省當局者及び日本大使館員は日米問題圓滿に解決せらるゝものと觀測しつゝあり。今日迄兩國當局者は最後の解決點に到着せざりしも今日迄の交渉は圓滿に進行せり

▲在留同胞に關する新協定

日米交渉の消息に通ずる人々の談に依れば日米兩國は(一)米國に在留日本人の利權を擁護すべき新協定と(二)將來移民の渡米を嚴重に制限すべき新協定又は紳士協約の修正を行つて所謂日米問題を解決することにせん

▲日本は紳士協約修正に反對

右の日米間の新協定は十一月下旬迄に締結せられ來る十二月の米國議會に提出せられん尚ほ日本は移民を制限するに現在の紳士協約に充分なりと見做し此際改めて右協約を修正する必要なしと主張しつゝあり(華府發)

▲附記—國際通信會議の決議に依る九月開かれたり幣原大使に右會議出席の日本の首席代表者なり。

日米交渉一時中止

國際通信會議中交渉中止

△十一月總選擧後再開

華府に於ける消息に依れば國務省と日本大使館との加州排日問題及び日本移民問題に關する交渉は去る火曜日の幣原大使と歸國中の駐日モーリス大使との會見を以て一先づ打切りとされたり日米の交渉は華府に開催中の國際通信會議終了時期迄中止せらるゝことゝなれり

▲加州排日立法後再び交渉

華府の國際通信會議は會期は約一ケ月なり故に日米兩國は米國の總選擧及び加州の排日法案決定後に再び開始せらるゝものと觀測せらる

▲日米當局局面樂觀

國務省當局者及び日本大使館員は日米問題圓滿に解決せらるゝものと觀測しつゝあり。今日迄兩國當局者は最後の解決點に到着せざりしも今日迄の交渉は圓滿に進行せり

▲在留同胞に關する新協定

日米交渉の消息に通ずる人々の談に依れば日米兩國は(一)米國に在留日本人の利權を擁護すべき新協定と(二)將來移民の渡米を嚴重に制限すべき新協定又は紳士協約の修正を行つて所謂日米問題を解決することにせん

▲日本は紳士協約修正に反對

右の日米間の新協定は十一月下旬迄に締結せられ來る十二月の米國議會に提出せられん尚ほ日本は移民を制限するに現在の紳士協約に充分なりと見做し此際改めて右協約を修正する必要なしと主張しつゝあり(華府發)

▲附記—國際通信會議の決議に依る九月開かれたり幣原大使に右會議出席

日米當局局面樂觀

國務省當局者及び日本大使館員は日米問題圓滿に解決せらるゝものと觀測しつゝあり。今日迄兩國當局者は最後の解決點に到着せざりしも今日迄の交渉は圓滿に進行せり

▲在留同胞に關する新協定

日米交渉の消息に通ずる人々の談に依れば日米兩國は(一)米國に在留日本人の利權を擁護すべき新協定と(二)將來移民の渡米を嚴重に制限すべき新協定又は紳士協約の修正を行つて所謂日米問題を解決することにせん

▲日本は紳士協約修正に反對

右の日米間の新協定は十一月下旬迄に締結せられ來る十二月の米國議會に提出せられん尚ほ日本は移民を制限するに現在の紳士協約に充分なりと見做し此際改めて右協約を修正する必要なしと主張しつゝあり(華府發)

▲附記—國際通信會議の決議に依る九月開かれたり幣原大使に右會議出席

◇聯盟爭議の中心點

共和黨卅一名士聯盟觀を發表

ハーディング應援の理由を聲明

共和黨に屬する名士、學者卅一名は昨日大統領選擧戰に於ける國際聯盟論に對する態度を說明し共和黨大統領候補ハーディング氏を應援せざるべからざる理由を辯明したり、右卅一名の共和黨員の多くは政治家、學者、宗教家等にて前大統領タフト、前國務卿ルート、戰時食料監督フーヴァー、スタンフォード大學總長ウィルバー、アウトルックのアボット等の姓名をのリスト中に見の相違の要點を民主黨の政綱と民主黨大統領候補はウィルソン氏と同樣無修正無保留批准を

▲名士連の聲明

『米國が世界列强と充分に提携して戰爾防止策を講ずべきことを希望しつゝある下記連署の吾人は來るべき大統領選擧戰に於て右の目的を遵守し實現するの手段を考究せり、共和民主兩黨の大統領候補者間の問題は米國が平和確保の

▲國際的團體に參加

すべきや否やの問題にあらずして之れに參加すべきやの問題にあり吾人は世界列强が協同提携して平和を確保し

▲軍備を縮小

せんことを希望するものなるが講和會議に提出せられたる國際聯盟規約は吹年三月即ち國際聯盟成立前に

金の輸入

日本政府は中止の意嚮

▲但し實際は盛んに輸出せらる

▲恐く今後も繼續するだらうと

◆小嶋正金支店長之れに説明◆

十月五日桑華府電報は在東京米國大使館附商務官アボット氏は『日本政府は最早米國より金を輸入するの必要を認めざるに至り今後之れを中止す可しと傳へらる』と報じ居るが之れに關し毎便日本に多額の金を輸出しつつある

▼正金銀行 支店長小島氏の談を聞くに一體金の輸出には政府勘定即ち日本銀行の要求に依り輸出するものと個人即ち普通爲替銀行が爲替の決濟として輸出するものとして前者の場合は大藏大臣が經濟界の狀勢を仔細に調査し之れを上金の輸入が不必要と認めれば日本銀行に命じて之れを

▼中止せし めるこもあり又た場合に依りて兩國政府の協定に依りて制限することを得可し更に日本銀行が各爲替銀行に通達して輸入を制限することも待ん然し今迄で爲替銀行に對して何等の命令あるを聞かず正金銀行にも通達なし故に特別なる法律制定せざる限り

▼爲替決濟 の爲めの金輸出は免れざる處なり況んや桑港の如く日本に向け賣爲替のみ多くして買爲替無き所にて勢金の輸出に依りて決濟せざる可からざる狀態なり而し米國に於ては金の產額が減少し事業熱に關係を及ぼすを以つて金の減少を惜しみ

▼禁止令を 出すやも計られずと然し今回の場合にては普通銀行より爲替の決濟二億弗以上あれば引續き出荷されんと尚ほ本日出帆の泰洋丸にても日本へ一千百萬弗程の金塊出る筈なり今日本に於ける金銀の出入狀態を見るに九月中金銀の輸出は一萬圓

▼輸入總額 は五千八百七十萬圓にして一月以來輸出三百八萬圓に對し輸入一億七千四百万圓あり斯の如く金銀輸入の激增は之を歐米に置くよりも國內に置く方有利なるに因ること明し居る向きも尠からず尚ほ金の運賃は百萬弗が普通貨物三百萬弗に相當するを以つて今便の泰洋丸は普通

▼貨物は尠き由なれど金賃一千一百萬弗ありと云へば結局運賃の點に於ては三千噸の貨物を滿載したると同樣の收入を得る譯けなりと云ふ

●自家用酒釀造●

朝令暮改

▲米國行政部の矛盾

華府稅務官ウオリヤム氏よりの訓令に基き桑港駐在官ワーデル氏自家用ワイン釀造差支へなしとの法令新解釋を發表するは昨日今迄の法令を無效とする旨紙所報の如くなるが昨日に到り合衆國檢事シルバ氏は檢事總長バルマー氏の訓令ある迄自家用と雖もワイン釀造は

▲禁酒法違反 と認め嚴正取締りを屬行すべしと聲明せりバルマー檢事總長の訓令は如何なるものなるや豫想の限りにあらざるも何れにか最後の決定ある迄自家用釀造を差し控へるを安全とすべし

●本日の出船入船

▲共に船客滿載

第三十六號綾橋に繫留中の東洋汽船會社客船春洋丸は本日午後一時橫濱へ出帆する豫定なるが同船客は二等二百四十名二等二十名三等は非常に多く五百三十名貨物は金塊一千萬弗を初め相當に積載ゆ筈尚は同社

▼客船 波斯丸はホノルルを經て橫濱より今朝午前八時頃入港第三十四號綾橋に繫留ゆ筈而米船安洋丸は今晩港外に到着明早朝第三十四號綾橋に繫留することゝなり居り

●古名家作品展覽

▲大博跡の美術館

今十六日より大博跡美術館文藝復興期から十八世紀に至る英、佛、獨、和蘭、西班牙等の八十余の古名家の代表的作品百點が陳列されるが此等は米國では紐育以外で未だ展覽せられた事の無き珍らしいものばかり年代順に配列してあるから歷史的研究をするのに好都合であるといふ

十名貨物は金塊一千萬弗を初め相當に積載ゆ筈尚は同社

◆尼サンの投票

▲千二百名登錄す

婦人參政權の通過となる米國の姫人共はわが時來たれりとばかりに向ふ鉢巻で大車輪の活動をはじめ大分色々と流つて來たが▲其影響する所駄だくしく何の浮き世かとは世を案てて愚痴めの衣に這た說く尼サンだちまでが浮き世に舞ひ戻る▲組育のキャソリツク教會所屬の尼サン千二百人は出家前の名をそれゝと登錄し投票準備が出來た相ナ

●小麥市場調査

▲カンサス知事の請願

カンサス州知事アレン氏の摘發せるシカゴ・ボード・オブ・トレードが小麥市場を左右しつつあるとの報告を得たる大統領ウキルソン氏は秘書を通じてアレン知事に總ての證據物件を合衆國商業委員に提出せん事を求めたりと而して大統領の命に從ひ同委員農務省共力して穀類仲買人等の不正手段によりて市價を左右し農家を苦しめつつあるや否やを調査すべし

●米價協定難

▲日本米價問合せ

加州米の糶價格協定に關し一昨日耕作者代表者及び精米所側代表者が桑港に於て會合を催したるが耕作者側は高値を持して讓らず精米所側は外國輸出向として價を提唱し

▲兩者 互に讓らざりし爲め遂に不調に終り今年度の加州米は海の物とも山の物とも附かぬ狀場合に依りて値段を決めず今年度の總收穫一千五百萬弗から二千萬弗の米をトールミルに附し將來の市場價格を待ちて處分するに至らんと尚は

▼日本 米解禁の報に接したる同胞商人は兎に角算盤を相もれし貨車數二万六千五百四貨車に達せり

●米國船船局

▼米國船船局 の太平洋より東洋へ行く各船の運賃協定を罷め今後は其の組織を變更し日本支那汽船は勿論米國汽船及び米國船船局も一團となり新たに太平洋岸の貿易を增進する爲めに一致協力を爲す事に決定したり從つて今後は互に

▼出來得る限 り競爭を避

見得るだらう」とは八卦を待つ迄もなく先づ「りんものだらう」と云ふ

●各國汽船會社一團となり

太平洋岸の貿易を增進

◆太平洋西部運輸協會に於ける協議◆

昨日引續き桑港に於て開催されつゝある太平洋沿岸の各汽船會社代表者の協議會に出席したる東洋汽船會社支店長土井氏の談に依れば同會議の昨日迄の經過は左の如し從來太平洋岸にある外國汽船會社及び米國汽船會社及び多數の船舶を所有する

▼知らざれど も荷主が常に懸引上日本船には何彼にて積みたがると云ふ事は有り勝ちの事にて今回の問題も恐らく此の礎ゆものなるんと思はるゝ因みに最近の問題たるジョンス法に對する一般の觀測は到底實施出來ざるものと認め居るを以つて何等話題に上らざる狀態なりと會議は本日を以つて終了の豫定なりと

●東部輸送果物

今年春期より十月十二日までの加州產果實類（柑橘類を除く）の東部に輸送せ

▲大阪商業會議所依賴 硝子製の婦人頭飾り其ゆ他の裝飾品として日本品が輸入され相當の市場を得つゝあるが更に販路擴張の目的を以つて大阪商業會議所に於ては米國に於て流行しつゝある硝子製品の各裝飾品の見本蒐集方を桑港日本人商業會議所に依賴し來れりと

雇はれたし

男物テーラーに充分經驗あり

電話ウエスト七五〇八

婦人用

一ヶ月の子供を扶ひ二人のクッグをなし少しの家內勤ありて食室附午後五時迄ブレー街三二〇〇番へ來訪

精米部助手

一名賃金應相當

委細は御來談 ヤマクロン街二六 岩上合名會社

職人入用

一時間當に附留守居職人入用相應の給料を出す然し賃金は高給を拂ふ

職工入用

名夫婦にてもよし高給を支拂ふ電話王府三九五八ユニオン洗濯所 2510 Filbert St. Oakland

アイオン

方に名入用夫婦者にて

もよしデーボット洗濯所 247 Railroad Ave. San Mateo, Cal.

求婦人

教育ある白人男子四十二歲の財產あり教育ある日本婦人十六歲より廿五歲迄の人と結婚の爲め通信したし P. O. Box 77, Ray, Ariz.

店員

小賣部 名入用 委細御來談 ポスト街 合名會社岩田商會

夫婦者入用

大急御來談 電話ケルヤ二四四 桑港 ポスト街 電話バッフキング二六二四

職工入用

カウンター名洗濯一名高給を拂ふ 361-20th St. Oakland 富士洗濯所

職工

アイオン二名夫婦者でよし高給を拂ふメリスビル 238-2d St. Marysville, Cal. 日本洗濯所 電話メーン一八六

雇はれたし

男物テーラーに充分經驗あり

電話ウエスト七五〇八

婦人用

一ヶ月の子供を扶ひ二人のクッグをなし少しの家內勤ありて食室附午後五時迄ブレー街三二〇〇番へ來訪

精米部助手

一名賃金應相當

委細は御來談 ヤマクロン街二六 岩上合名會社

職人入用

一時間當に附留守居職人入用相應の給料を出す然し賃金は高給を拂ふ

職工入用

名夫婦にてもよし高給を支拂ふ電話王府三九五八ユニオン洗濯所 2510 Filbert St. Oakland

アイオン

方に名入用夫婦者にてもよしデーボット洗濯所 247 Railroad Ave. San Mateo, Cal.

求婦人

教育ある白人男子四十二歲の財產あり教育ある日本婦人十六歲より廿五歲迄の人と結婚の爲め通信したし P. O. Box 77, Ray, Ariz.

店員

小賣部 名入用 委細御來談 ポスト街 合名會社岩田商會

夫婦者入用

大急御來談 電話ケルヤ二四四 桑港 ポスト街 電話バッフキング二六二四

職工入用

カウンター名洗濯一名高給を拂ふ 361-20th St. Oakland 富士洗濯所

職工

アイオン二名夫婦者でよし高給を拂ふメリスビル 238-2d St. Marysville, Cal. 日本洗濯所 電話メーン一八六

●多數は日本人教師

▲布哇各島の學校

布哇社會教育課參事マカセー博士は加州大學に於て調査せられたる公立學校教師大會に於て布哇島に於ける教師缺乏に關し加州教育者に訴る所ありたるが其說明に依れば現在布哇の教師の多數は日本人にして英語教育以外の學校教師ばかりなれば問題に於ける教師缺乏に對する補充は目下の急務なり云々とあり

●アイオン師

二名至急入用 敬虔な支拂ふ ウエスト三七六〇 フエギリー洗濯所 2209 California St., San Francisco, Cal.

自動車使用人

一名至急入用 金高相當に面談にて 河下愛知商會 Walnut Creek, Cal.

賣家

日本人に貸した四室電燈つきアパート各室全部改裝ずみ サクラメント街三〇三七

賣地

最地一エーカー十弗宛、九百英町四六六英町が、アルフアルフア百廿五弗宛、百英町四百十英町が、アルフアルフア百廿五弗宛、百英町四十英町上等住宅用百フアルフアルフア百廿五弗宛、七十英町內五十英町アルフアルフア百廿五弗宛、コロラド、カンサス、ニューメキシコ、オクラホマ、アリゾナ、ユタ、ワイオミング、アリゾナ、ユタ、ワイオミング、アイダホ、ネバダ、九十三万五百九十九万坪、現在墨國面積より十六万方哩多いり墨國かテートメントを一棟と給へ、そして千八百四十五年來米國は三回にテキサス、コロラド、カンサス、ニューメキシコ、オクラホマ

相馬茶店
電話六二二九
相馬園
電話三二九八
相馬園
電話三二九八
相馬園
電話三二九八

金曜日の桑港市場（十月十五日）

葡萄出荷多し

▲苺好値　本日葡萄㊐

▲高値の葡萄　出荷多量にて聊か過剰氣なれど値段底下落せず相變らず高値を持したりシードレス・マスカットなど品薄にてトーケイ甚だ多し

▲苺出荷減　苺は相變らず出荷減少したりラッタ六十七チエストエキスプレス十六チエストにしてストロベリは高値を唱へ知り

▼サンノゼ桃　ピーチ品薄なりし昨今サンノゼよりピーチ及びプラムの時代は過ぎて市場に困却せられ居れり

▲トメトー不振　其後トメトーは相變らず不振にて市價弱し上等ものは聊か高し

▲石榴高し　昨今石榴の出荷あれど價格は高し柿栗の如き果物も相當値段を持し居れり

▲玉葱不振　アニオンは其後も依然として不振ポテートも一向活氣を見せず

▲アップル出荷　昨今アップルの出荷旺盛にて市場に幅をきかせ居れるも値段は振はず

果物類

▲梨　一封度廿仙より二十五仙

▲柿　一箱五十仙より二弗　上等二弗より二弗五十仙

▲石榴　少箱一弗七十五仙大箱二弗半

▲アーブ　トーター一クレート二弗より二弗五十仙ラッカボックス三弗より三弗半メロン　ヤードレス一クレート二弗半メロン　ヤードレス一クレート二弗二十五仙より三弗五十仙マスカット　ヤードクス三弗より四弗プラター一クレート二弗二十五仙より二弗半ラッカボックス三弗より三弗二十五仙マラガ一クレート二弗廿五仙より二弗七十五仙ホワイト及ブックコニヨン一クレート二弗廿五仙より二弗半イサベラ一クレート二弗より二弗半

▲ペーチ　一箱三弗半より四弗パートレット四弗より五弗ビッタルス一箱一弗半

▲プラム　一箱等級もの一弗廿五仙より一弗七十五仙上等二弗より二弗半

▲ピーチ　ラッカボックス二弗より三弗サンセチ二弗より二弗半

▲ファイグ　一クレート墨箱一弗廿五仙

▲ファイグ　一クレート墨箱一弗廿五仙より一弗七十五仙白一弗より一弗廿五仙

▲ペアー　一封度十仙より十五仙

▲オレンヂ　箱バレンシヤ六弗より七弗上等八弗二十五仙

▲レモン　二弗より三弗上等三弗七十五仙より四弗

▲グレープフルーツ　一箱三弗より三弗半上等三弗半より四弗半

▲アプル　遠て四テヤ、ベルフラワー一弗五十仙より一弗七十五仙四テヤ七十五仙レッド一弗七十五仙より二弗四テヤ半一弗半より二弗五十五仙四テヤ二分一一弗七十五仙より二弗アレキサンダー一弗二十五仙より二弗ホワイトスーメンス一弗七十五仙より二弗廿五仙ユタンヒピン四テヤ七十五仙より二弗四テヤ半一弗廿五仙

▲ストロベリー　是付属サンタクララ郡の海岸地方一クロア箱スクワッシュ等の海岸地方一弗より一弗三十五仙標準バスケットの一弗廿五仙より一弗半キャラット行一封度十四仙

▲ペーチ　一ドロア（十二オンス入）七十五仙より九十仙（八オンス）七十五仙

▲ブラックベリー　一ナエスト十弗より十二弗

野菜類

▲新コーン　一袋一弗半より二弗

▲マスクメロン　一クレート（大型）一弗半より二弗七十五仙ベルシヤン一弗半二弗

▲ハネデュー　一クレート一弗一弗廿五仙

▲カサバ　一クレート一弗より一弗廿五仙

▲キャンタロープ　一クレートメーラード産ポニース七十五仙より一弗二弗クリスタル一弗半より二弗フラット五十仙

▲ウォーターメロン　一封度一仙半

▲シトロンメロン　一クレート一弗より一弗半上等二弗

▲スクワッシュ　ラッカボックス一弗より一弗半ラブスコヌシ一箱一弗五十仙

▲南瓜　一袋波止場渡し二弗より二弗二十五仙ストリート渡し二弗四十仙より二弗半

▲甘藷　一箱七十五仙より一弗南加産一封度五仙ヤラッカ七十五仙一弗

▲胡瓜　一箱　七十五仙より一弗半上等二弗

▲エガプラント　ミーピンゲストン一弗より一弗廿五仙上等一弗半

▲キャロット　一袋一弗廿五仙より一弗五十仙

▲ビーツ　一袋一弗半より一弗七十五仙

▲ピーツ　一封度七仙より八仙

▲ヤーリック　一箱ケナヤ八十五仙より一弗半千用一弗より一弗五十仙上等二弗

▲アニオン　一袋貫一弗より一弗廿五仙白一封二仙

▲オギ　一箱一弗半より上等二弗

▲ピース　一ポンド十二仙より十五仙

▲ピンズ　一ポンドストリングビンズ三仙より五仙上等七仙ライマビンズ八仙より十仙

▲セロリ　一クレートホワイト三弗半より四弗エロー四弗

▲レタス　一クレート一弗半より二弗水詰二弗より二弗二十五仙

▲カリフラワー　ダズン一弗

▲キャベツ　一封度一仙一ダズン廿仙

▲スピニチ　一クレート一弗より一弗二十五仙上等一弗半より二弗

▲パスター　六十仙

▲蕪　上等八十五仙エキストラプレッツ六十七仙アンダサイズ五十九仙半

雜魚

白耳義に出かける武者小路君が此間外務省で短銃の花見舞を受けた齋藤君を病院に見舞つた時のこと昭恵の聞柄として『オイ貴様は隨分悪運の強い奴だナ』と一本參ると齋藤君横腹をさすりながらの應酬が面白い『た陰で足下の新婚旅行に當てられないで濟んだヨ』▲助からない助かるないと言つて居る間は重病人の看護者も覺悟して居るがイザ死んだとなると感慨が新になる排日案などが之によく似て十一月二日愈通過すると國民は默つて泣寝入りすることはあるまいと觀念して居る外交官もある▲加州の排日形勢は險悪だが併し我政府と何の關係もない米人で極力排斥の背理を說き廻つてる者もあると之が我國だつたら國賊扱ひにされる處だ

◈勞働の神聖

勞働は神聖であるそうだ神聖である勞働は神聖であるかは自分は知らぬ無い怒る机上の空論にのみ浸頭してる問題も自分は人間らしい感りしないが一度ガバーオールを被ゝ六ポケットに除るを取つて農園に立つ時實に王者の感が胸に充滿する此の樂味は都會の生活に繼續する人、机上の空論にのみ浸頭する人乃至黄金を積んだ人達に味ひ得ざる快味である其所には生氣に滿ちたる大機がある無邪氣な仔犬ら居る空飛ぶ鳥も爽に來りて樂む（O生）

貴下は

太平洋岸岸で最も確實な事業の一部を持主となる事が出來る

THE ROGERS UNA-DRIVE MOTOR TRUCK

"A Pull on Every Wheel"

（四輪全部働くエンジンに）

製造所

ロージヤーヤー・ナウ・ブイラド・モーター・ツラツク會社

工場　加州サンセベルヒ

事務所　桑港ハースト・ビルヂング四一八

モーター・ツラツクは貨物運搬の問題を解決す

モーター・ツラツクは多くの製造問題を解決す

河海と汽車を直接の連絡は最早重大問題とならず

數年前迄交通不便にて耕作されざる土地はツラツクにて今日充分に耕作さる

當會社は道の惡しき處を充分の荷物を積み運搬するに向くツラツクの需要增加に對し充分調査を遂げたり

合衆國政府は田舍の近い處の運搬にモーター・ツラツクを用ふる事を勸めたり是現在の貨物激增を防ぐ爲なり

ローヂヤー・ウナ・ドライモーター・ツラツクは此仕事をなすに適す

會社資本金百萬弗

內五十萬弗は七分の優先株

內五十萬弗は普通株

內五十萬弗は普通株

此內七分の優先株六萬株を募集す

一株額拂込金一弗

此株式は普通の收入稅を徵集されず

申込次第詳細通知すべし

同會社株式日本人部總代理店同會社製ツラツク日本人部總代理店（輸出共）

丹原組

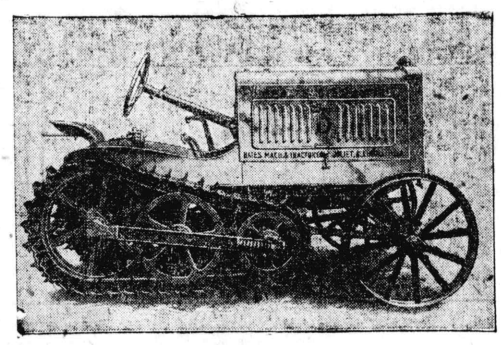
Tanbara-Gumi

Rms. 202-213-214-215
Postal Telegraph Bldg.

San Francisco, Calif.

THE BATES STEEL MULE

—タクラツ多力能番一國米日今—



ラクターを購入する際には之を使用する土壤に適するものを選まねばならぬ

ベーツ・スチール・ミユールは如何なる土壤にも如何なる場所にも用ひらるゝ樣に製作せるを以て此撰擇に適す

車體輕きが故に軟かな地上の作業に適し力强きが故に四個のボトムプラウを曳き得

ベーツがあれば思ふ時に仕事が出來且つ他の如何なるものを用うるより經費少なし

J. M. CONLEY CO. Inc.
417 E. WEBER AVE.
Stockton, Calif.

足滿　取扱　質品

食料品雜貨

ます金商店

ポスト街一七九九
電話ウエスト四二七一

洗濯所用諸機械

ワシヤフ、リンガ、ストウブ
ベルト一切新及古物安價販賣
チヨン・ダブリウ・リード

1456 Mission St., S.F. Tel. Market 778

HOTEL FUJI
423 Maynard Ave.
Seattle Wash.

妻君御親族御朋輩御呼寄の際は前以て御通知被下候へば上陸に關し必要なる事項早速御返事可申上候

シヤトル市メーナード街

藤井旅館

四二二
煉瓦造支館二棟タコマ及キヤマ旅館各二百室最新設

來週の

年次大賣出御注意

ROTARY GROCERY CO. THE FRIEND
1434 HAIGHT ST.
CONSUMERS
Phone MARKET 1524

土曜日（十六日）の特價

純ケーン砂糖　五斤　六五
カーネーションミルク　一罐　一二
又はリビー
クリスロ三斤八五仙　六斤　一、六五
メーゾラ油牢ギヤロン　一ギヤロン　一、一五
同　デルモンテ・ソース　五罐　二二五
メープル・ケツアプ　一瓶　一、一五

フキルモアー街一四五二一五八
ロータリーグロサリー
オツフアレール街角

ロータリー印珈琲　一斤　一、五〇
ガラマラ珈琲斤三五仙　三斤　一、〇〇
M. J. B. 珈琲五斤罐入　一斤　四、五
同　三斤入　一斤　四、六
同　一斤入　四、八

煙草
ダーハム　一包　八仙
ラツキーストライキ　一、六
チエスタフキールド　一、六
キヤメル　一、六
イムペリアル　一、六
オルドミル　一、六
スパー　一、六
ラツキーストライキ　二個　二、七
プリンスアルバート　同　二、七
ベルベツト　同　二、七
タキシード　同　二、七
ユニオンリーダー　同　二、七

市内は何處でも無料配達

來週の年次大賣出御注意

アニヤン　レタス　ビーツ　カブ　ピー　人參　大根　白菜

▲其他なんでもあります遠方の方はチヤツキ又はCODで送ります

種子屋北澤兄弟商會
KITAZAWA BROS
107 Jackson St., San Jose Cal.

名醫紹介
私子供全身腫れ多數の醫師に見放された處支那人女醫靜梅の施藥にて全治す同醫住所は桑港スタクトン街一〇四九なりスタクトン街山陽商會內松岡たねまつ（ヨキタ・ネヲ）まつ　スピナツチ

英語教授
親愛なる日本人諸君の成功は實用的英語習得にあり妾は十年著者且十數年經驗あり懇切教授す
Miss. C. RYAN, Tel. West 6125
3103 Clay St., S. F. (Near Baker)

◎公債◎
◎株式◎
日本英貨公債米國自由公債諸株式賣買
御紹介次第最近値段表及說明書送呈可仕候
桑港ブッシュ街一九六〇
岩山商店
IWAYAMA CO.
1960 Bush St.,
S. F. Calif.
Tel. West 8801

鮮魚　食料品一切
海陸商會
桑港ラグナ街一六一一
電話ウエスト四五〇五

▲卅年前創立▲特に女學校設置
▲教師台人四名日本人二名あり
▲ヴエール博士は日本語に精通
▲完備せる美以教會寄宿舍を接す

美以英和學校
桑港バイン街一三五九

大正九年度の新種子物を代價表は御申越次第無代進呈
種子物原產地加州ホリスター
山中丈吉（園主）
Hollister Seed Co.
Rt. 2 Box 112
Hollister, Calif. U. S. A.

滋賀縣人會
縣人總代　久下　沼邊　潤
友人總代　今村　二一
島中大和
野村八慶

刑妻
さだ子
急患に罹り郷里に於て水眠せる旨來電に接し候處ては聊かなりとも追悼惜別の誠意を表したく來る十七日午後二時麥嶺佛教會に於て葬儀を再修致候幸に辱知諸君の純眞なる御厚情に依り亡靈を寂光界に慰精するを得ば大慈大悲絕對他力に靈魂の安住この上なき慶福と存じ缺禮ながら特に御案內申上たく紙上に托し謹告仕候也

十月十五日　敬具

夫　野村喜八郎

親戚總代　渡邊　綱
縣人總代　久下　沼
友人總代　今村　二一
島中大和
野村八慶

滋賀縣人中並に死亡慈葬の際は御多分の寄附金御惠與被下度尊有年略儀以紙上御禮申述候

櫻府光寺久五郎
世話人園山下丑松

註文せよ
鹿島重二良

久男　父
北原鶴
ビル
ス
ル
ル
ク
ツ
ル
ツ
ル
ツ
ル

FOR AMITY BETWEEN
AMERICANS AND JAPANESE

The Japanese American News

ENGLISH SUPPLEMENT
SATURDAY, OCTOBER 16, 1920 No. 7518

What Will the Immigration Committee Do?

The following is a free translation of an editorial, in Japanese, published in this newspaper last Monday.

REPRESENTATIVE ALBERT JOHNSON, chairman of the House Immigration Committee, has called all the members to a meeting, to be held in Washington, D. C., November 15, there to discuss the bills which are to be introduced at the next session of Congress for the purpose of amending the immigration law.

Mr. Johnson, a Representative from Washington, recently visited California for the purpose of making a special investigation of the Japanese problem here. He appears to be misunderstood in the Orient, which is unforunate. Bearing the same family name as a former governor of California, he is believed by some to be Senator Hiram W. Johnson, and is put down for a great radical, a Japanophobe of the deepest dye. Others, knowing him to be a Representative from Washington, believe him to be in the anti-Japanese camp for the reason that there is an anti-Japanese agitation in that state also.

But Mr. Johnson is not the radical many in the Orient believe him to be. Rather, he is moderate in his political opinions. Judging him by his past utterances, we incline to the belief that he has a kindly feeling for the Japanese. His attitude and manner when he was here indicated this.

We feel, therefore, that it cannot be said that the measures which will be discussed at the meeting of November 15 will be entirely unfair to the Japanese. We rather are inclined to think some favorable action may be taken there.

One of the chief purposes of the conference is to discuss the near-tidal wave of immigrants flowing into this country from Europe, already the subject of debate in the House of Representatives. There is a general feeling that there should be restrictions placed upon European immigration. There must be an investigation and free discussion of this problem.

Compared with the larger European problem, we do not feel the one presented by the Japanese is of very great importance. Moreover, the Japanese problem already has been the subject of a special investigation by the Johnson committee, and probably will be the subject of a special report to Congress. Such reports surely should have Congressional consideration before being acted upon.

Now, as to how the immigration committee will treat the Japanese problem, we believe its report will be based on the special investigation made by the sub-committee in California and other Western states. We are satisfied it will take into account the temper of the people as a whole and also will make reference to possible future results and conditions growing out of the action taken by the United States.

Of course, we do not know as yet what this special investigating committee's report will contain, but of this we are sure: The gentlemen of the special committee fully realize the United States must educate and take proper care of those Japanese who already are here in America. Furthermore, we believe they will seek to incorporate their ideas in a working plan.

They may try, for instance, to register all the Japanese arriving in the United States, or require all the Japanese in America to carry a registration card. At the same time they may devise some special treatment to be accorded the Japanese who are residing in this country for a certain period.

We do not feel that these things would be too much to ask of the committee. We are not able to say, of course, what will be the nature of the special treatment accorded the Japanese, but we do know that Chairman Johnson and other members of the committee are sincere.

They may fall short of our expectations, but Americans as a whole will not be satisfied to treat the Japanese as a race apart and refuse them protection. Americans frankly recognize the necessity of affording proper protection and guidance to the Japanese in this country. Surely this nation-wide public sentiment will influence Congress. It is this that makes us feel that, somehow or other, this sentiment will be reflected in special legislation.

The Japanese problem in California, it seems to us, is at a standstill. On the Japanese side there is no opportunity for further action. But when we consider this great Union, the problem is not so hopeless. There are some sentiments entertained by the Congress of the United States in which we may put dependence and trust.

For these reasons we do not take a pessimistic view of the situation. We place our trust in Congress, and our advice to all our people in this country is, Don't Worry.

Boston's Japan Society.

BOSTON is to have a Japan Society. This was definitely decided recently at a gathering of representative Bostonians at a meeting held at the Chamber of Commerce. Rev. Dr. Thomas Van Ness, who recently returned from the Orient, presided.

The meeting was called to discuss the need of bringing about better international relations between this country and Japan, by the dissemination of wider knowledge gathered from reliable sources of facts pertaining to the two nations; by acquaintanceship with those Japanese we find in our midst; by the establishment of a forum for the discussion of subjects relating to the Far East. It was decided that a Japan Society was the most definite and practical way of accomplishing this result. The speakers were: Dr. Van Ness, Prof. James H. Woods of Harvard, Prof. Sophie C. Hart of Wellesley, Dean Lee S. McCollester of Tufts, Miss Helen Temple Cooke of Dana Hall, Wellesley; Admiral Dunn, Miss Jessie M. Sherwood and Mr. William H. Randall. In speaking of the necessity for such a Society in Boston, Dr. Van Ness gave the following five reasons:

First: As a people, as a nation, we invited the Japanese to come to the United States; therefore they are our guests in a more distinct and intimate way than are the immigrants of any other land. In honor to ourselves we owe the Japanese the utmost courtesy.

Second: Not only were the Japanese invited to come, but we drew up and signed a treaty guaranteeing them certain rights, privileges and immunities which some of the people of our nation would now abridge or deny altogether—a shocking example of international bad taste and dishonor.

Third: The Japanese, of all the people who have come to our shores, have never been accused of disloyalty, revolutionary tendencies or treason to our government.

Fourth: Because of Japanese influence, the commerce of some of our western cities, including Seattle, has been increased more than 100 per cent; the Nippon Yusen Kaisha in 1918 paid a revenue tax of almost $3,000,000. The Japanese put aside the temptation of gain in the suggestion that their vessels be transferred from American to Mediterranean and European ports, and, because of honor, still keep those ships running to Seattle.

Fifth: Well-known travelers unite in the statement that one finds the warmest expression of friendship on the part of the Japanese toward the United States. If, then, these people stand loyally by their agreements and covenants, shall we prove unfaithful to our pact?

Among those present were: Admiral Dunn, Prof. James H. Woods, Prof. Sophie C. Hart, Dean Lee S. McCollester, Prof. Edward S. Morse, Miss Helen Temple Cooke, Miss Mabel Cooke, Mrs. Charles Sumner Bird, Mr. Edward L. Gulick, Dr. and Mrs. Van Ness, Dr. Morton Prince, Miss Edith Haynes, Miss Sybil Holme, Mr. Marshall Gould, Miss Jessie Sherwood, Mr. Lemuel H. Lane, Mrs. Katherine T. Hodge, Mrs. Anna Bond Stephens, Mr. Lewis J. Peters, Mr. William H. Randall, Mrs. Ida Harrison, Mr. John H. Waterhouse, Mr. Royal Whiton, Miss Alpha McClure and Dr. E. W. Leslie.

It was voted to call the new society The Japan Society of Boston, and the following committee was appointed to proceed with the preliminary work of organization: Dr. Van Ness, Mr. William H. Randall, Mr. Marshall H. Gould, Mr. Lewis J. Peters, Miss Jessie M. Sherwood.

The sentiment of the meeting was that the world has reached that phase of its enlightenment in which it must recognize the oneness of mankind, that the inequalities of race are due to lack of education, that it is at this critical time of world affairs very necessary that the peoples of the world come to know each other better and that education shall form the basis of an understanding, social, racial and moral, that shall in the end be the foundation of the lasting peace of the world.

The establishment of this peace can never come through political measures or through the military powers of nations because the fundamental principal upon which we must build is something above the materialism which at present seems to predominate the world. It is up to us as a nation to set an example that shall create trust and confidence in all nations of the world that we may be a unifying power in the family of humanity. It is for this that the Japan Society of Boston has been founded.

Why I Want to Become an American Citizen.

Winnres of Prize Contest.

IN publishing herewith the five winners of $1 prizes in the contest for boys and girls of Japanese parentage, born in the United States, it seems necessary to state that corrections have not been made in the "copy" as it was received by The Japanese American News. The editors were influenced in their awards largely by the sentiments expressed, and, in noting errors in grammar, spelling and the like, took into consideration the age of the writer. In this connection it is interesting to note that the first prize, $10, went to a girl 12 years of age.

* * *

By NOBUKO WAKIMOTO.

Whose world is this? Have we not all equal rights to exist? Are we to be blamed, I wonder, for our birthplace? Of what am I guilty because I was born in America, and because I love my native land, my California?

Yesterday, associating with my mutual friends, my heart was full of gladness. Today my bosom swells with filial love and patriotic pride, and eagerness to serve and honor my birthplace. Tomorrow—will my soul be wandering without a country, and unsheltered by freedom and justice? Will I be banished to the Orient, a strange, unseen, un-Christian land, of the usages and customs of which I know nothing? Even of its language I know only a little just as I know a little of French and Spanish.

Will natives be willing to receive one who goes as a castaway? I, who have been taught to walk erect, keep my soul clean, *fear God and fear no other fear* and *look the whole world in the face*, how should I adjust myself, physically and mentally, to the cringing, fawning attitudes of the imperial subjects? Abhorrence and amusement struggle in my soul! Wild eagle of the west, bear me on thy wings!

History declares their land small, densely populated and life of a struggle.

O, my America, with broad plains, untrodden mountains, vast rivers, great winds hold me fast! Hide me! I adore thy lofty ideals. Under them I was born—I breathed them in my soul. I am thy kindred by natural law, bone and flesh of thine—keep me! Am I not thine by the fundamental law? Does not thy constitution provide that all thine be governed equally? Could any real patriot add the selfish amendments that destroy thy worthy code, under God, the author of liberty?

Two-score and seventeen years ago, *My Captain* addressed to me and my mates unborn the loftiest call that ever run across Columbia's vastnesses, the deathless call from Gettysburg: "All men are created equal—Government is *of* the people, *by* the people, *for* the people."

O, my America, my California, let me live to perpetuate *My Captain's* ideals. Let us grow to manhood or womanhood with high ideals, honest standards of conduct, and a mind not warped by prejudice and hate.

* * *

By CISCO NOJIMA.

Life, liberty and pursuit of happiness are the fundamental principles on which United States is based upon. Every citizen of United States enjoys these rights and these rights cannot be taken or transferred. The government of United States is wonderful. You may ask why? It is wonderful because it gives you these rights; your personal effects are safe; you can vote regardless of social position or power; you are the government, that is, the government is created thru you and you yourself is the only one who can uplift or degrade this government. What other countries gives you this precious and essential right?

Democracy is an essential part of this government. Everyone likes to be democratic and along with democracy, liberty goes hand in hand. Such liberal-mindedness which have made these principles the fundamental basis, has made opportunities of education beyond mere cost. Everyone ought to take advantage of such an opportunity. There are many free public schools and colleges and the system of education is becoming more and more better and efficient every day. An American citizen enjoys these wonderful privileges.

In some countries when one is poor he is always poor but in America one is able to rise up to the highest state or position from the lowest social state. Cases where a very poor boy becomes a president is very evident. Take Lincoln for an example. His presidency was due to his own efforts. If one is willing to work and work hard to reach the highest pinnacle of success, he can do so. In America a man cannot be kept or tied down, if he desires to reach the height of his ambition; whereas in some countries once a man is made poor it will be a great while before he can regain his former wealth, in fact many times he is never able to become great or wealthy.

Caste or social position does not make a great difference. Rich and poor alike mingle. In other countries it would be an outrage to their society if one mingled with another of a much lower position. Wealth or poverty does not make absolutely no difference in a person's voting capacity. Each person has one vote and only one. More than one vote for a wealthy person and sometimes none for a poor person is unconstitutional in America.

* * *

By FLORA MITSU IMAI.

There are many reasons why I desire to become an American citizen, but in the first place, what is an American citizen? Well, an American citizen is a person, native or naturalized, of either sex, who owes allegiance to the American government, and is entitled to reciprocal protection.

The American citizen, compared with the other nations, have great advantages. An American citizen has political rights, civic duties, high ideals and great principles. He enjoys and defends life and liberty, of acquiring and possessing property and reputation, and of pursuing his own happiness.

The second reason and the most important reason why I desire to become an American citizen is because an American citizen can occupy the most greatest position for the main reason that he has had a proper education. The education of the American citizen are far advanced than any other nation owing to the fact that they regard education as their most important ally. The parents of the Americans send their children to the elementary school, then to high school and then to college, where they are educated to go into the world to take up their life work. When an American citizen finishes his education so easily, his main ambition will be to accomplish an difficult purpose. Among the Americans education is not only a discipline, a training, but it is also a symbol. It stands for a larger freedom which political liberty foreshadows; it means living an ampler life in the world. The Americans have said that the passion of the Americans is not for money, but for education. Is it not so? The elementary schools, high schools, universities and libraries are found to be supported by the people of America and not by the children's parents.

To conclude why an American citizen is most desirable, is because they are under the power of freedom, opportunity and because their development is far greater than any other people.

* * *

By ERNEST FUJIMOTO.

Breathes there a man with soul so dead,
Who never to himself hath said,
This is my own, my native land.

We, that are born and raised in the American atmosphere of ideals have only one thing to utter, though deprived of all citizenship rights and that is, "This is my own, my native land." If we are not a citizen then we are truly a man without a country. I have never gazed on the land of my ancestors and how could I call myself a native of Japan after being deprived of citizenship rights. I am attending the public schools to better myself in American ideals, as it is through schools that good citizenship is taught most effectively. I want to become a citizen so that I would be able to have all the privileges of an American and take active part in the welfare of the nation. We are often spoken of as being uncapable of being good citizens and could not assimilate with American ideals; but give, just give this generation of American-born Japanese a chance so that we will be able to prove ourselves most worthy to become good citizens.

* * *

By DOROTHY FUMIKO ENDO.

I esteem the privilege above all things that I was born in the United States of America. I feel that this is my own country, where I can enjoy all the rights of citizenship and expect to exercise my loyalty to the Stars and Stripes.

I believe that this is the fairest portion of the earth, with fertility of soil and salubrity of climate. My heart is filled with love for its templed hills and the beautiful hills, rivers and the lakes. I love to hear the Liberty bell ringing from every mountainside. How happy I felt when I saw the Liberty Bell in San Francisco during the Panama-Pacific International Exposition in 1915.

While we are depressed by some as Orientals, yet my love for my schoolmates and associates grows stronger each day as the days go by. It will be hard for me to leave these dear friends and go to Japan, where it is a foreign land to me. As I am educated in Uncle Sam's school, my love toward him is growing stronger each day and he will be my dear "Uncle Sam" as long as I live.

"We the people of the United States, in order to form a more perfect Union, establish justice, insure domestic tranquility, provide for the common defense, promote the general welfare, and secure the blessings of liberty to ourselves and our posterity, do ordain and establish this Constitution for the United States of America," is the Constitution of the United States, which I learn in "Uncle Sam's School."

WHEN THIS OLD WORLD WAS YOUNG.

(Continued from Last Saturday.)

CAUTIOUSLY Raiko and his knights approached the goblin king with swords drawn. Describing a mighty sweep, Raiko's sword bit through the goblin's neck. As soon as the head had been severed from the body it shot into the air. Smoke and fire shooting forth from the nostrils scorched the doughty Raiko. Again his sword struck out and this time the head, horrible to behold, fell to the floor and did not move again. Soon the knights had dispatched the demon's followers.

Joyfully there fared forth from the great iron palace the captives of the goblins. Raiko's five knights, bearing aloft the monster head of the goblin king, were followed by a company of happy maidens released at last from their horrible confinement and eager to return to their homes in Kyoto.

THE GOBLIN SPIDER.

Raiko fell seriously ill some time after the slaying of the goblin king and was obliged to keep to his room. At the midnight hour a little boy always brought him some medicine, but instead of improving under his ministrations Raiko grew worse. Always he was worse immediately after having taken the medicine brought him by the little boy, and began to wonder if some supernatural cause did not occasion his illness.

Raiko at last asked his butler if he knew anything about the small boy who always brought him his midnight potion. Neither the head servant nor anyone else in all the household seemed to know anything about the boy. His suspicions now fully awakened, Raiko determined to see the matter to its end.

When next the small boy came at midnight, Raiko, instead of taking the medicine, threw the cup at his head and drawing his sword attempted to kill the boy. Flying from the apartment, the boy threw something at Raiko. Spreading out into a huge sticky web, it clung so tightly to Raiko that he scarcely could move. He cut the web through with his sword, but another immediately held him in its close meshes.

Raiko shouted loudly for assistance. His chief retainer met the small boy in a hallway and slashed at him savagely with a sword. The goblin threw a web over the boy also. At last the retainer was able to extricate himself and run into his master's room, where Raiko was yet struggling to free himself from the sticky web.

Eventually the goblin spider was discovered in a cave writhing with pain, blood flowing from a sword cut on the head. The spider instantly was killed and with his death the evil influence which had caused Raiko's serious illness passed away. The hero's health improved from that hour, and a great banquet was prepared in honor of the happy event.

(Continued next Saturday.)

CONFUCIANISMS.

THE MASTER said: "I will not be afflicted at men's not knowing me; I will be afflicted that I do not know men."

* * *

THE MASTER said: "He who exercises government by means of his virtue may be compared to the North Polar star, which keeps its place and all the stars turn toward it."

* * *

THE MASTER said: "In the Book of Poetry are three hundred pieces, but the design of them all may be embraced in one sentence—'Have no depraved thoughts'."

* * *

THE MASTER said: "If the people be led by laws, and uniformity sought to be given them by punishments, they will try to avoid *the punishment*, but have no sense of shame. If they be led by virtue, and uniformity sought to be given them by the rules of propriety, they will have the sense of shame, and moreover will become good."

* * *

MANG WOO asked what filial piety was. The Master said: "Parents are anxious lest their children should be sick."

* * *

MANG E asked what filial piety was. The Master said: "It is not being disobedient." Soon after, as Fan Ch'e was driving him, the Master told him, saying: "Mang-sun asked me what filial piety was, and I answered him, 'Not being disobedient'." Fan Ch'e said: "What did you mean?" The Master replied: "That parents, when alive, should be served according to propriety; that, when dead, they should be buried according to propriety; and that they should be sacrificed according to propriety."

BUSHIDO.

By DR. INAZO NITOBE.

CHAPTER XIV.—(Continued)

THE transformation of Japan is a fact patent to the whole world. In a work of such magnitude various motives naturally entered; but if one were to name the principal, one would not hesitate to name Bushido. When we opened the whole country to foreign trade, when we introduced the latest improvements in every department of life, when we began to study Western politics and sciences, our guiding motive was not the development of our physical resources and the increase of wealth; much less was it a blind imitation of Western customs. A close observer of oriental institutions and peoples has written:

"We are told every day how Europe has influenced Japan, and forget that the change in those islands was entirely self-generated, that Europeans did not teach Japan, but that Japan of herself chose to learn from Europe methods of organization, civil and military, which have so far proved successful. She imported European mechanical science, as the Turks years before imported European artillery. That is not exactly influence," continues Mr. Townsend, "unless, indeed, England is influenced by purchasing tea of China. Where is the European apostle," asks our author, "or philosopher or statesman or agitator who has re-made Japan?"

Mr. Townsend has well perceived that the spring of action which brought about the changes in Japan lay entirely within our own selves; and if he had only probed into our psychology, his keen powers of observation would easily have convinced him that spring was no other than Bushido. The sense of honor which cannot bear being looked down upon as an inferior power—that was the strongest of motives. Pecuniary or industrial considerations were awakened later in the process of transformation.

The influence of Bushido is still so palpable that he who runs may read. A glimpse into Japanese life will make it manifest. Read Hearn, the most eloquent and truthful interpreter of the Japanese mind, and you see the working of that mind to be an example of the working of Bushido. The universal politeness of the people, which is the legacy of knightly ways, is too well known to be repeated anew. The physical endurance, fortitude and bravery that "the little Jap" possesses were sufficiently proved in the China-Japanese war. "Is there any nation more loyal and patriotic?" is a question asked by many; and for the proud answer—"There is not"—we must thank the Precepts of Knighthood.

On the other hand, it is fair to recognize that for the very faults and defects of our character, Bushido is largely responsible. Our lack of abstruse philosophy—while some of our young men have already gained international reputation in scientific researches, not one has achieved anything in philosophical lines—is traceable to the neglect of metaphysical training under Bushido's regimen of education. Our sense of honor is responsible for our exaggerated sensitiveness and touchiness; and if there is the conceit in us with which some foreigners charge us, that, too, is a pathological outcome of honor.

Have you seen in your tour of Japan many a young man with unkempt hair, dressed in shabbiest garb, carrying in his hand a large cane or a book, stalking about the streets with an air of utter indifference to mundane things? He is the *shosei* (student), to whom the earth is too small and the heavens are not high enough. He has his own theories of the universe and of life. He dwells in castles of air and feeds on ethereal words of wisdom; his mind is athirst for knowledge. Penury is only a stimulus to drive him onward; worldly goods are in his sight shackles to his character. He is the repository of loyalty and patriotism. He is the self-imposed guardian of national honor. With all his virtues and his faults, he is the last fragment of Bushido.

Deep-rooted and powerful as is still the effect of Bushido, I have said that it is an unconscious and mute influence. The heart of the people responds, without knowing the reason why, to any appeal made to what it has inherited, and hence the same moral idea expressed in a newly translated term and in an old Bushido term, has a vastly different degree of efficacy. A backsliding Christian, whom no pastoral persuasion could help from his downward tendency, was reverted from his course by an appeal made to his loyalty, the fidelity he once swore to his Master. The word "loyalty" revived all the noble sentiments that were permitted to grow lukewarm.

A band of unruly youths engaged in a long-continued "students' strike" in a college, on account of their dissatisfaction with a certain teacher, disbanded at two simple questions put by the director: "Is your professor a blameless character? If so, you ought to respect him and keep him in the school. Is he weak? If so, it is not manly to push a falling man." The scientific incapacity of the professor, which was the beginning of the trouble, dwindled into insignificance in comparison with the moral issues hinted at. By arousing the sentiments nurtured by Bushido, moral renovation of great magnitude can be accomplished.

One cause of the failure of mission work is that most of the missionaries are grossly ignorant of our history. "What do we care for heathen records?" some say—and consequently estrange their religion from the habits of thought we and our forefathers have been accustomed to for centuries past. Mocking a nation's history! —as though the career of any people—even of the lowest African savages possessing no record—were not a page in the general history of mankind, written by the hand of God Himself. The very lost races are a palimpsest to be decided by a seeing eye. To a philosophic and pious mind, the races themselves are marks of Divine chirography clearly traced in black and white on their skin; and if this simile holds good, the yellow race forms a precious page inscribed in hierogiyphics of gold!

Ignoring the past career of a people, missionaries claim that Christianity is a new religion, whereas, to my mind, it is an "old, old story," which, if presented in intelligible words—that is to say, if expressed in the vocabulary familiar in the moral development of a people—will find easy lodgment in their hearts, irrespective of race or nationality. Christianity in its American or English form—with more of Anglo-Saxon freaks and fancies than grace and purity of its founder—is a poor scion to graft on Bushido stock. Should the propagator of the new faith uproot the entire stock, root and branches, and plant the seeds of the Gospel on the ravaged soil? Such a heroic process may be possible—in Hawaii, where, it is alleged, the church militant had complete success in amassing spoils of wealth itself, and in annihilating the aboriginal race: such a process is most decidedly impossible in Japan—nay, it is a process which Jesus himself would never have employed in founding his kingdom on earth. It behooves us to take more to heart the following words of a saintly man, devout Christian and profound scholar:

"Men have divided the world into heathen and Christian, without considering how much good may have been hidden in the one, or how much evil may have been mingled with the other. They have compared the best part of themselves with the worst of their neighbors, the ideal of Christianity with the corruption of Greece or the East. They have not aimed at impartiality, but have been contented to accumulate all that could be said in praise of their own, and in dispraise of other forms of religion."*

*Jowett, *Sermons on Faith and Doctrine*, II.

By SOSEKI NATSUME.

(Translated by a Japanese Schoolboy.)

Meanwhiles the chillun were enjoying myself so heartily, saying: "It's funny, oh ain't it funny, papa." All of them were laughing as loud as ever they can. I were so angry, painful, but I couldn't stop the shimmy all around prate of Mochi. I was really helpless thing, indeed I were. When the big laugh was concluded the child five years of age remark how dare you cat whereat everybody once more again essay to laugh so ridicuously louder than ever before. Never in whole past life I have felt so acutely the coldness and wholly unsympathetic attitude of mans, although I have seen plenty and sufficient of this kind of their behaviors. All Heavenly Grace is gone, I think, that I stand at rest now on the four usual feets. But problem not solved yet. Painful like struggle went on. I was walking border line between lifes and deaths.

THE dear master was too sympathetic-minded to look at my acute suffering for his edification, recreation and amusement that he finally said to the maid and demanded to take the Mochi apart from my mouth. The maid, not responding soon to the demand of the sweet master, looked at mistress as if she want to have more amusement and fun at my expense of terrible pain and suffering.

The mistress of course like to have more fun and more dancing, but she is not so cruel as heartless maid that she would dare to have more fan even killing her innocent cat, so she is not saying a word—she is keeping just silent. Then the dandy master demanded again to the maid saying "Why don't you take the Mochi off from the cat's mouth? He would die if you don't take it right away apart. Take it from, I excite."

The maid can't refuse this demand of course. So she, showing the facile expression like she has been just awaken from her dream in which she was eating something sweet and has not half finished—that is she is showing the great disappointment that she could not go to limits in this fun, she puts her hands on my mouth and so unceremoniously took the Mochi off. Oh, my—great heaven, in this very moment I have had the deepest sympathy to Mr. Cold-moon of whom I have spoken already that he has lost his fore teeth in eating the mushroom, as I myself had such a painful experience in my teeth. I just wandered if my teeth are taken off together with the Mochi. Pain? I tell the world, most emphatically indeed; nothing can be more painful in this world. Then I found the fourth truth: All the joy and pleasure must have once passed the painful experience. After finding the fourth truth and looked around and there were none in the kitchin but myself all alone.

THE MAID LOOKS DOWN.

Well, after having such an embarrassment, it is not quite agreeable thing any how to see the maid as she will surely look at and down me with some sort of despise. I need to change my mood. And for the purpose I went out to call on Miss Mike, a darling maiden-cat across the vacant lot. Miss Mike is very good looking and charming cat and very popular around the neighborhood. I am of course a cat, I am always conscious about this fact. But I do have some affections or feelings or other and to be sure, I am not heartless being which do not understand what is the LOVE stuff. Whenever I see the clouds hanging on the face of the fond master, which indicates the insides of the dear master, or when I have trouble with the maid and the maid is getting mad, I usually go out and call on this lady-friend and talk various things—lots of moonshine, sentimentals, etc., etc., etc. Then—well just then always I began to feel very well and all the troubles vanish all at once, that I feel just as if I were born again. The influence of the other sex is really great indeed. Absolutely.

When I sneaked out from the bushes, which stand between her house and mine, wandering if she is at home, I saw her sitting on the porch with very pretty new ribbons on her neck as it is the New Year. She is sitting so neatly and gently. The lines of her statue are so beautiful that I have no adequate words to describe the beauty. The curved lines, manners of the little feet, melancholy looking, all other things—oh, they are just beautiful and charming!

And as she is sitting on top of the porch floor basing the broad daylight, her pose is just divine, and her hairs are shining very brightly. When I saw this picturesque scene, I went almost in the ecstacy. After a few minutes of this silent and ecstacy, I called out "Miss Mike—Miss Mike"—with small and low voice—and needless to say it was tender voice, too, and with my hand I invited her to come out.

I AM YCLEPT TEACHER.

"Why, my teacher——" she said and she was coming to me. There was red ring on her neck with a tiny bell and as she moved on my direction it was ringing pleasantly. Instantly I thought that this is the New Years present to her from her musician Mistress and I was charmed by that melody. Then she was standing at my side and said "Happy New Year, Teacher," moving switchly her tail as greating. I must explain this, as the men do not understand this way of doing of us. Among us cat, when one greets to the other, one makes stand the tail like a straight line and deflect it to the left side. This is the reguration of the greating of the cat.

There are no one in this neibourhood who call me as Teacher; Miss Mike is the only one who calls me such. I have no name yet given as I have explained long before, but as I am living in the house of the school teacher, she speaks me always as Teacher. I do not feel bad when I am addressed Teacher, so I always respond to her whenever she calls me that way.

"The same to you, Miss Mike, and many of them with thanx—Why, you look so fine and splendid, you are all dolled up, aren't you?" I said to her. Then she said at me, "Yes, my Mistress bought this one for the New Year and gave it to me, isn't it so pretty? I wish you will like it, too," and then she tried to ring the bell for me. "Well, it is very magnifescent indeed—sweet sound—certainly—yes, I never have seen such a thing in all my sad sweet life, I am positive—" I said to her. "Oh, you are teasing me—please don't—everybody has one like this, don't you know?" she said. And she again tried to ring the bell as if she is very much pleased by what I said to her.

(More melancholy stuffs to come!)

ロスアンゼルス（十四日）

協會役員會

●南加農家保護

▲蓜岡茅野兩氏報告　南加農家保護協會にては十三日午後專務理事、實行委員並に顧問を加へたる役員會を開催し谷越、駒井兩實行委員より事務上の報告あり藤岡紫朗、野恒司の兩氏出席委員より

▲北中加方面の剝時局運動の模樣及び打合せに付詳細なる報告あり次に潛羅中の山岡音高氏は運動方法に關する四五の注意陳述あり夫れより種々重要事項を協議したり尚は一部社會に同會實行委員に關し誤解を抱き居る者もあればまて左の如き聲明書を公表したり

本會成立以來一般同胞奮つて本會の擧に贊する旨大勢の致す處なりと信ずれ然るに一部卷説の偶々本會役員又は實行委員俸給の過大なるが如く誤傳する者あるが如く遺憾とする處也本會役員又は實行委員は凡て無給なり

但し其の所に當る數名に對しては追て適宜なる謝禮を致すべし本會は今百万出費を節し實効を擧ぐるに努力しつゝあれば一般同胞奮つて此の擧に援助されんことを希望す

農家保護協會專務理事　藤岡紫朗
十月十三日

尚は目下同會の雇員は日米人男女十名なり

●基督と排日　ロンダビー市第一長老教會牧師ルーク博士は十七日の曜朝夕二回の説教を日本人問題の爲めに充てたる由にて朝の演題は「基督は排日問題を何と見るか」夕の方は「良心の聲に反せる目標の危險」等にて大に熱辯を揮ひ同市米人の良心に訴うる由なり米人第二長老教會に於ても近く排日防止の運動を開始する筈なり尚ほ又ロングビーチ共愛會にては排日防止のパンフレットを各方面に配布し好成績に向ひつゝありと

●證明料問題　曩きに中央日本人會より各地日會を代表し證明保證料の値上げ方を羅府領事に申請し領事館にては更に該請願書を外務省宛發送したる事は既報の如くなるが最近領事館を爲すとなり居りて未だ他領事館より何等の申請なければ直ちに決定を見る能はざるとの回答なりし由にて保證料の增徴は當分實行の見込みなかるべしと

●來羅客激增　毎年の例として秋より冬にかけて米國東部及び北部より冬期春の如き羅府に避寒の爲め來遊する者七八万人の多きに達せるが本年は例年に見ざる激增を示せる由にて英字紙の報ずる處に依ればエスピー、サンタフイ、ソートレーキの三鐵道が毎日運び來る純粹の來遊客のみにて千五百人の多きを數へ例年に比し約四倍の數字を示しつゝあればなほ十二月迄に優に三十万人に達すべく而して毎年の例よりすれば其中の五分の一六万人は羅府に永住すべきを以てホテル及び住宅は益々不足するに至らんとの見込なり

●保護協會と北米報知　農家保護協會と當地に於て發行する北米報知新聞との間に意志の疎通を缺き居る由傳へられ居しが今回中村査一、笹井鹿之助兩氏仲間に立ち調停する處あり双方能く諒解し一般同胞の大問題に關し今後歩調を一つにし同胞社會に貢献するとに十三日夜關係者立會の上解決したりと

●同胞家屋に投石　過般來アナハイム地方に於て日本人家屋に投石し窓其の他を破壞する惡漢中兩キャンプを襲ひ投石して損害を加へたるを以て今回日本人會にてシエリフを雇ひ入れ尚ほ其の上百五十弗の懸賞にて犯人を捕縛するとに決したり

●空小切手行使　近頃日本人に空チエツクを行使する者あり成宮時計店にては四十五弗の小切手を受取り其の外にも二三軒の日本人商店羅縻者ある由にて目下其の筋の手を經て行使者捜索中なり

●北部好成績　サンルイスオビスポ、ランポーク及びガーデングローブ地方に於ける時局講演會は吉永柴田安西三氏の應援に依つて非常なる好成績を上げサンルイス千五百弗ランポーク二千弗ガデーグローブは目下活動中なりと

●山岡氏の演説　沙港の山岡音高氏は新世界社の依頼を受け各地講演中なるが十四日夜本願寺佛教會ホールに於て同社主催の時局演説をなせりと

●羅府會議所米國第一羅府米人商業會議所は去る八月廿九其の會員數に於てシカゴ市の次千七百九十六人に次ぎ全米國商業會議所中の第二番なりしに今十月に入つて七千二人に增加し遂に米國第一の多數會員を有するに至れりと

フレスノ（十四日）

日本人宣傳は反感を挑發す

ハンフォード長老教會米人牧師言明す

故國宗教界の耆宿平岩博士が當地日會の援助に依り來る廿四日より一フレスノ各地の米人教會に於て日米問題に關する講演を爲すとの由は昨紙報道せし所なるが同博士の講演會を催ふさしむべく當地の川島、福嶋、真鍋三氏より佐藤牧師に交渉したるに佐藤牧師も豫め其計畫を有しハンフォード米人長老教會牧師インサイト氏に交渉したるにインサイト氏は一般米人社會が政治的に狂奔する時に當り日本人が日本人問題に付米人社會に講演するは却て米人「一般のアジテーション」を强ひる者にして策の得たるものにあらず多くの米人中には排日騒ぎの罪惡なるを慨し日本人に同情を寄せ居る者少なからざれば在留日本人は此際寧ろ沈默を守り反動的親日時代の來るべきを期待するに如かず」まて平岩博士の講演に賛成せざりし由に付佐藤氏も同博士が米人教會に講演するの運動を中止したとの驅逐者」を以てし我が日本移民は今も猶ほ潮の如く入り來りつゝあり而かも事實に見よ最近の知事の報告に據るに八萬七千二百七十九人に過ぎず其の訪强流言さへ高六千九百八十八英加にして日米人會社組織の下に所有する一英加と其他總借地區域等を區域の漸く狹ばまるに出でざるは最近知事より國務卿ヒューズ氏に宛てたる書翰に依るも明かなり然るに彼等排日家等の所謂「日本人侵略」なるものは那邊に在りや我が日本政府が向後移民を阻止すべし聲言しつゝある這は既に問題と爲らず餘りて所は何の爲めなりや呪はれ腐心しつゝあるや我等加州の日本農民は今日一部解析する人士の我等に對する態度に苦しみ此際公正にして寛量なる一般米國民に訴へて事實の判斷を仰ぎ以て公正なるを興へられんことを請ふものなり

●平岩博士巡廻講演　日米親善運動の爲め平岩博士は本月廿四日ハンフォード日本人間▲廿九日布市日米人教會▲廿一日午前バーリア米人教會▲廿一日午後布市米人教會以後日本人間▲廿一日午前バーリア米人教會▲廿一日午後布市米人教會以後日本人間▲廿二日午前ハンフォード日本人間▲廿九日布市日本人教會▲廿一日午前バーリア米人教會▲廿一日午後布市米人教會以後日本人間▲廿二日午前ハンフォード日本人間▲廿九日布市日本人教會▲廿一日午前バーリア米人教會▲廿一日午後布市米人教會以後日本人間の巡廻講演を爲す由

▲廿四日ロサンゼルス又はパイセイア市又はセルマ者くは▲ドレーノの內一回講演▲故宮の講演に於て其の講演▲廿五日の歌劇會▲廿六日デルレー日本人間▲廿七日ハンフォード日本人間▲廿九日布市日本人教會▲廿一日午前バーリア米人教會▲廿一日午後布市米人教會以後日本人間▲廿二日午前ハンフォード日本人間▲廿九日布市日本人教會▲廿一日午後布市米人教會以後日本人間の巡廻講演を爲す由

▲廿四日ロサンゼルス又はパイセイア市又はセルマ者くは▲ドレーノの內一回講演▲故宮の講演▲廿五日の歌劇會▲廿六日デルレー日本人間▲廿七日ハンフォード日本人間▲廿九日布市日本人教會▲廿一日午前バーリア米人教會▲廿一日午後布市米人教會以後日本人間の巡廻講演を爲す由

又は誤りなるや我等加州の日本人は今日一部解析する人士の我等に對する態度に苦しみ此際公正にして寛量なる一般米國民に訴へて事實の判斷を仰ぎ以て公正なるを興へられんことを請ふものなり

●少年軍後見役　學生會の有志は今回ボーイスカウトを有効に活動せしむる目的にて特に日本人先輩中より三名竹本、大橋、小村の三氏を後見役に依囑する筈なりと云ふ

●太田洲埼艦長　は本日午前十一時頃櫻府より來須（昨紙太田艦長及多ケ谷副長來須の報道は誤りにて昨日來須せしは多ケ谷副長なり）多ケ谷副長高野少佐と共に當地方巡視に赴ばる

●中田重次氏來市　故國に於て純粹の舊傳盡の勇將として有名なる中田重次氏愛嬢自由美以教會の三澤牧師と共に本日來須日本人會訪問後直ちに河下諸島視察に赴けるが兩三日中再び歸須當市に於て傳道說教を爲す可しと

●自動車保險

●勞働者保護保險

市山見坂事務所

歸朝御挨拶

小生來る十六日桑港出帆の春洋丸にて一時歸朝仕候間出發に際しては多大の御餞別御贈與に預り忝く奉拜謝候へ々叅堂御禮可申上筈の處行李匆々其意を得ず乍略儀以紙上御厚禮申述候

十月十二日　フレスノ市　下田貞吉

最新刊

倉田百三
歌はぬ人　一、五〇

樋口麗陽
日米戰爭未來記　一、五〇

長尾知美
育兒及小兒病講演　一、六〇

水上瀧太郎
亞米利加記念帖　二、五〇

英語研究會
遠藤廉用
英語自習寶鑑　三、〇〇

活力增進
强壓微動術　三、五〇

ショーペンハウエル原著
處世哲學　二、八〇

開原栄
無敵の米國　二、五〇

七大專門大家述
婦人衛生編　二、〇〇

羅府東一街二五〇電六二五九五
博文堂

●美以救會歡迎會　十六日午後七時半より同教會に於て新任藤井牧師並に日曜學校教師ホイラー及びポートレー兩氏歡迎會を催ほす由藤井氏は曾て同教會を牧しせしことあり兩教師は就任以來非常に評判宜しき尚一般の來會を歡迎する由

●伊達商店デユリー大安賣　布市カーン街一四二三伊達商店にては本業の男女洋服並に裁縫ミシン販賣の傍ら斬新洗行の各種長尾知美「デユリー物一切」貴金屬寶石類を驚くべき勉强にて安値販賣す

歸國御挨拶

前田吾次郎

大原政吉

生等御地在留中は一方ならぬ御交誼を蒙り難有奉深謝候尚今回歸郷に就ては猶ほ御厚意に預り實に肝銘ぬ至り御座候御陰を以て無事看桑本日出帆の春洋丸にて乗船歸國の途に就き候間御安神被成下度候先は乍略儀紙上を以て右御禮申上候

大正九年十月十六日

教師招聘

日本人學園の學生等に教授を爲す希望者は履歷書を添へて御申込を乞ふ

パレア日本人學園
P. O. Box 145 Parlir Calif.

育兒

日米戰爭未來記

處世哲學

無敵の米國

婦人衛生編

博文堂

歌はぬ人

亞米利加記念帖

強壓微動術

無敵の米國

處世哲學

婦人衛生編

育兒

日米戰爭未來記

博文堂

最新刊

歸朝御挨拶

歸國御挨拶

自動車保險

勞働者保險

美以教會歡迎會

伊達商店

在米日本人教育會

●正義人道に訴ふ

▼英字紙に掲載

中加四個日會外交部は來る十一月二日を以て行はる加州一般投票の期日切迫し來れるを以て左記の辯駁文をフレスノ、レバノン、ハンフォード、ヤヤプリカン、バイセイア、タイムスベーカスフイルド、カルフオルニア●四新聞に掲載せり依頼

▲正義に富める米人に訴ふ我等加州在住の日本人は排日を以て自家政爭の具となし之れに依り其野心を充たさんとする一部煽動者流の犠牲となり彼等の爲めに利用されて常に辛辣に道なる惡罵と甘受しつゝあり彼等は今や我等の與知らざる移民問題を以て我等に肉薄し來りせし我等を此自由なる米土より驅逐せんと默從するの我等は果して斷じて無し

▲如く我が日本人は平和的にして法を遵守し勤むに收々たる無辜の良民なり彼等の目的とする處は單なる良民が何故斯る虐遇を受けざるべからざるか是れ我等偏へに聽かんと欲する處なり

▲過去を顧みるに初めて土地に來り時は我等は諸君と共に荒蕪地の開拓と改種の饒沃なる無辜の人士を以て自家の利益を圖り我等の爲めに利用されて無情非

●州博覽會の會場擴張案

▲更に百六十英町増加

櫻府年中行事の隨一と擧げられたる加州産業博覽會は年の九月に開催期なれば六十万の見物諸方より入り込み櫻府市の繁昌を齎らすことなるが先頃より羅府にては現在の家畜展覽會を擴張して櫻府の州博と拮抗せんとする大運動を起し其經費を明年の議會に提出せんとの勢を示し來たれるより一州に二ケ處の州博併立せんか市の有志並びに當局の間に一種の恐慌を生じたりしが州博の位置は依然として櫻府なりとの折合付き州博グラウンドを更に百六十英町増加し將來百万人の見物を迎ふる用意を以て諸種の設備を施し櫻府の州博に非ずして眞に加州の州博たらしめんとの計畫なりとか

●平岩神學博士講演

▲聽衆三百五十名盛會

既報の如く美以教會派監督平岩神學博士の講演會は昨夜午後八時より當市邦人美以長老兩教會の主催にて第六街白人美以教會内にて催されたるが土方教師司會し褚顔肥軀の博士は『東洋西洋文明の調和點』と題し日米兩國融和に關し約二時間に亘る講演を試み三百五十名の聽衆に對し多大の感動を與へたる由

●精神病者か　當市第三街綿村旅館止宿の山口縣人大島某は三十二三の油潔なる風貌の青年なるが昨日スタット・コントローラーなるデモット氏役所に至り肋骨の間に條虫湧きしとか申立てたりて同氏事務所よりは會に通知して何か理の解からぬ大氣焔を擧げて引き退ったり

●市邨校長來櫻　私立名古屋女子商業學校長にして令名ある市邨芳樹氏は文部省囑託にて歐米商業教育視察の途次を以て昨日來櫻し午後より河下方面の農業狀態を視察し當市愛知縣人會主催にて三日月亭に於て催されし晩餐會に臨み午後七時の電車にて歸桑したる由

●不村日會評議員會　フロリン日本人會にては來る十九日の午後二時より日會事務所に於て評議員會を開催すべしと

●幼兒の葬儀　市内エルム街四條ルーミングの山梨縣人四條由平氏三女ミツエ（二）は風邪より發熱して一昨曉死亡本十五日午前十時當市佛教會にて葬儀執行

●谷澤氏歸國出發　オーブン農業家和歌山縣人谷澤廣吉氏夫婦は十六日出帆の春洋丸にて一時歸國の筈め昨日當市出發

●鴨の銃獵期　明十五日より鴨其他鳥獸の銃獵期開始となるべきが邦人にて田舍商店を通じ鑑札を受けし人十二名ありと

●山口氏歸國期　ウッドランドの山口壯平氏は二月十三日の天洋丸便にて一時歸國する

●原田博士講演期　兩三日前の本紙三面にて豫報の如く前京都同志社々長原田助博士は來る十九日來櫻の豫定なるが在日會よりの通知により同夜は日會主催の下にて講演會を催すべく場所は未だ決定せざれども多分日本小學校の校堂なるべしと

●曾根死亡者埋葬　當地方にて農園に就働せし滋賀縣愛知郡稲枝村字肥出身の鹿嶋重二氏に胸部の病患にてホワイト病院に入院切開手術なせ受けたるも其効なく十三日死亡したるも舊財なきにより友人間より醵金して本十五日葬儀所に於て葬儀を執行したりと

●警附　黒河冨貴館の黒田繁樹氏より新婚記念として五先宛佛會及日本小學校幼稚園へ寄附△櫻府の玉利風山氏より下山英太郎氏の病氣見舞に金原眞平氏を通じて寄者まで送金

オークランド

●日米戰爭なし

石川牛山氏の日本人觀

王府美以教會に於て一昨夜開催しと云る時局講演會に東京萬朝報記者石川牛山氏は二時間半に亙る大講演を爲し聽衆約二百盧會會から數名の女子出演各國民行列の際日本人の前に到る時竹泉俱樂部員は『君が代』の四部合奏をなすと『八千代』の二部合奏をなすと決したる由

●佛教婦人會の復活　王府佛教會は水谷開教使來任後諸方面に復活を計り今回は從來有名無實なりし婦人會を復興し明日午後三時より第一集會を催す由

●王府祭に出演　王府市主催の秋祭に日本側よりは女子青年會主事富澤清氏に請ふて社會教育活動寫眞を催す由一般同胞の來會を歡迎す尚同夜は日本人の爲め米人の間に辯護演說をなす由

●王府秋祭に出演　王府市主催拒絶され海上病院に保養中なり時牛王府獨立教會に於て桑港青年會主事富澤清氏に請ふて社會前再渡米せしが眼病の爲め上陸

●櫓原氏上陸許可　麥嶺在住福岡縣人櫓原和作及び妻は十數日前に渡米せしが眼病の爲め上陸拒絶され海上病院に保養中なり時牛王府獨立教會に於て桑港青年會主事富澤清氏に請ふて社會教育活動寫眞を催す由一般同胞の來會を歡迎す尚同夜は日本人の爲め米人の間に辯護演說をなす由

●活動寫眞と講演　明日午後七時牛王府獨立教會に於て桑港青年會主事富澤清氏に請ふて社會教育活動寫眞を催す由一般同胞の來會を歡迎す尚同夜は日本人の爲め米人の間に辯護演說をなす由

●麥嶺在住の福岡縣人櫓原和作及び妻は十數日前に渡米せしが眼病の爲め上陸拒絶され海上病院に保養中なり時牛王府獨立教會に於て桑港青年會主事富澤清氏に請ふて社會教育活動寫眞を催す由一般同胞の來會を歡迎す尚同夜は日本人の爲め米人の間に辯護演說をなす由

●櫓原氏上陸許可　麥嶺在住

不鳴千鳥 (六七)

長谷川 伸

「碌な奴でなかと、いらん事を云ふものぢやなか」

山窩には太い眉の下に眼をつるしあげながら嗅きました、その口調に遠ざかつた蟬のやうです。

「貴方はあの婦人に構はず行きなさるがよろしい、若し」

「黙らんかい」

「若し不承知を云ひなさるなら、私は不承知を失禮ぢやが捏ばる、私は不承知を失禮ぢやが捏かねばなりません」

「ヲ、私どもと組むと云ふるか、私どもと勝負をすると」

「あつちへ行かぬか」

大池の選ぶ右腕が水平にあげられて山人足の行くべき方向を命令しました。

頭を激しく振つて山人足は、

「糞ッ、貴公行け」

「行かぬか貴様はッ」

一足踏み出した大池の背後から露枝の恐れに顫へた聲が鼎を裂くやうにあげられました。

「あ危ぶない、うの人は刀を持つてゐます」

「承知して居ります」

沈着な聲と共に大池は更に一歩を進めました。

「ヲ、私どもは刀物をもつてゐるばい、人の二人三人は殺すによか刀物を持てゐる、如斯味のよか刀物たい」

逆手に握つた山刀の身は光線を呼んでピカリと洞門の石天井に一道の怪奇な影を宿しました。

「悪人の證據を自身でよく見てくれ、詳細は訊かずとも最う懸念はない、貴様が若し善人でもあるかと多少遲疑もした、最う判つた」

「ヲ、ヲ、貴公な、私どもに敵對すつか」

「悪人の味方になれをば敵へられて居らない」

「ちゐすとヲ」

狂へる野猪の如く山人足は一本の牙の如き山刀を振り立てて躍かかりました。

車夫は車を棄てて飛びのきざま石壁の皆い處へ走つて蝙蝠みたいに引ッつきました。

露枝は唇め色まで失つて嵐に揉まれたやうに立つてゐます。

大池はと見れば山人足に空を打たせ、泳ぐ腰の崩れに乘じて突き出した拳はメリケン仕込みの偉力を見せました、山人足はへの字なりになつて一散に暫く走つてゐましたが、忽ちバタタリ倒れる、と、直ぐ跳ねかつて向きを更へました。

「命知らず、私どもが恐しかなかや、私どもが恐しかなかや」

「それは私のいふ事だ」

大池は山人足に對つて近づいて行きます。

山人足は汗とについた砂で半身を飾りながら山刀を握り直して大池に近づいて早三尺とは隔たらぬにピタリと立ち停まり齒をカチ〳〵鳴らし及を打ち振ひながら、相手を燃ゐる如き執念の眼で狙つてゐます。

「貴様かよつて來ぬのか」

山人足は答へず、相手の隙をひたすらに狙つてゐる外に餘裕はありません。

「貴様、かよつて來ぬのなら私の方から攻勢に出るが、よろしいか」

矢張り答へず黒眼を失つた眼は三角に光つて唇からは毒氣を吐くかと見ゐます、

「答へがない、然らば行くぞ」

言葉の終るや中に疾風のやうに大池は襲ふと見せて、實は半か身を轉じました、山人足は敵の攻撃を躱す積りで身を開いた其の方へ大池は間髪を容れずに襲ひかゝりました。

「糞ッ」

戰ふ術を飛び越して山人足は亂戰です、死物狂ひです、命といふものを忘れた惡辣な鬪かひ方です。

憐れむべき 兒殺し女 (二)

公判で其自白

午前十時法服をつけた草野裁判長は陪席判事を左右に控へて正面に着席し更に其左右には書記と檢事が嚴めしく冠を正しての字なりになつて一散に暫く走

笠を冠り手錠を嵌められた四人が二三人呼ばれ、其中の六十近い老人に判決言渡しがありました。ドクトル一例の某、前は古道具商を營みながら人の物を盗んだ贓品と知りつゝ買ひ取り之を賣つた不屆な罪は刑法第何條に該當するので懲役三ケ月を言渡す、併しこの前も商賣を始めた許でもあるし、見受ける處年も老いて再び犯す事もしながらうし、又この前の息子が傍聽席で父の身が何うなり行く事かと氣遣つて涙ぐんでゐる程であつたから、此度に限つて執行猶豫三ケ年の恩典に浴せしめる、今日から三年後の今月今日迄、再び罪を犯さなければ、今日の罪は全く消ゐて綺麗な身體になれる」と情深い判決言渡しがありました。傍聽席の人は感嘆を飲んで聞いてゐましたが、此時老人の茶呑友達らしいた婆さんは有難涙に咽びながら、辻のぶの公判は聞かないで出て行きました。

◎復讐に行ける身體か

愈々辻のぶの公判を始めました。延丁が一錢銅貨ゆやうな徹章の入つた靴を正帽の處へ片手を一寸擧げて、裁判長に敬禮して出て行くと間もなく辻のぶが出廷、誰かの差入れか、中流婦人ごころの服裝で、小柄な色白の妻を白洲の前に運び、時々ヒステリーらしい顏を曇らしては順温しく裁判長の前に俯れてゐました。次で辻のぶの夫と鮑聞を傳へられた元大本家の女中小林つねが證人として出廷し、被告と並んで立ちました。裁判長は「小林つね、之に捺印をせよ、此の宣誓は決して嘘偽を申るねと云ふ證で、若し種々の人に氣兼ねして、間違つた事を申立てると、た前迄が罪に問はれる事になる」と噛んで含めるやうに言聞かせました。

此の小林つねは思ひきり脊の高い色の黒い服裝も構はない女でしたが、言葉はテキパキと明瞭で、昨年六月廿七日から今年二月廿二日迄大木伯爵邸に奉公した事を申立てました。(つゞく)

一口噺

影辨慶

巴里の猫甲「此頃愛猫熱流行で俺等同族は幸福だ」

乙「人間の流行は俺等の目玉の樣にすぐかはるぜ」

某「アイルランドの市長は斷食五十六日やつても尚生きてるとクリスチャン」「だから人はパンのみにて生くるものにあらずですよ」

日本人「ナゼ人間平等案に贊成してくれぬか失敬ナ」

白人「日本人は如何見ても吾々以上の人種ナ平等案に贊成するのは却て失禮に當るハ、」

日本病院 Tel. Fillmore 2604 1811 Pine St., S. F. Cal.
外科皮膚科 産婦人科 ドクトル 黒澤格三郎
小兒科、耳鼻咽喉科 千葉醫學士 春田忠藏
桑港パイン街一八二一 電話フィルモア二〇〇四

帝國病院 1629 Post St., S. F.
醫學博士 顧問 渡邊恭禮 入院隨意
主任 ドクトル 伊津野房一郎
桑港ポスト街一六二九 電話 ウエスト七二六二

中央病院
内科、小兒科 眼科、皮膚科
血液、胃液、尿、糞便の顯微鏡的化學的檢査に應ず
桑港ブッシュ街一九五六
醫學士 渡邊悅藏
電話フィルモア一八九九
診察時間 午前十時より午後八時迄 但し金曜は夜祭りに休診

北河院 1552 Buchanan St. (北米アパートメント)
公認 醫院開業 スタンフォード醫科大學出身 ドクトル・オブ・メディシン
北河慶次郎
元レーン病院助醫
診察 午日午後一時より六時迄
時間 日曜午前九時より十時迄
電話 フィルモア五二八八

桑港公認 齒科醫師
(いろは順)
林德太郎 フィルモア四二〇九
井戸本保之助 フィルモア七九二
小川榮一 フィルモア九一〇
田中敏太郎 ウエスト六八四
谷田部保 ウエスト五二八二
藤田省三 ウエスト八三五〇
木暮篤太郎 フィルモア一二六〇
檜垣益一 ウエスト二四八四

加州齒科醫會

桑港 公認 齒科醫師 (いろは順)
桑港ポスト街一五二六 井戸本保之助 フィルモア七九二
桑港ポスト街一七七六 林德太郎 フィルモア四二〇九
桑港ポスト街一七三九 小川榮一 フィルモア九一〇
桑港ポスト街一五三〇 田中敏太郎 ウエスト六八四
桑港ブッシュ街一五六八 山本辰雄 フィルモア一二六八
桑港アッシュ街一六四五 谷田部保 ウエスト五二八二
桑港サター街一八七七 藤田省三 ウエスト八三五〇
桑港ポスト街(五五番館五階) 木暮篤太郎 フィルモア一二六〇
桑港ポスト街一六六二 檜垣益一 ウエスト二四八四

大阪藥店 郵送無料 公認調劑
●強壮 活力素 神経衰弱、食慾、精力減退、腎病等補強の良藥 早稲田博士發見 一ヶ月一弗八十仙
●有効 つゐり錠 三週分二弗 未曾有製劑
●強精 錠 百錠入一瓶五弗 二瓶九弗 三瓶十二弗 輸入性强壮に若しむアリー本劑に依りて根治す
●男女 強精力を增進し神經機能衰弱を治す最新獨逸製
●赤十字印胃腸丸 米國製劑 百錠入一弗 急性は勿論多年難治の胃腸病し本劑で全治す
●最新 わきが妙藥 二週分一、〇〇 慢性頑固のワキガも本劑に依りて根治が知く治す
藥局 多年の經驗あり日白人藥劑師によりて適藥を低廉に提供す 桑港ポスト街一五九四 電話ウエスト三四七四
OSAKA YAKUTEN 1594 Post St., S.F. Calif.

藥局 藥品目錄無代贈呈 桑港スタクトン街七五八 公認調劑 日本 NIPPON DRUG CO. 1690 Post St., San Francisco.

獨逸病院囑託通譯 桑港スタクトン街七五八 高尾鶴松 電話カーネー二四七六

齒より來る故障は體内諸疾病に直接原因となるはX光線應用に依り醫學社會の實證なり 公認 大久保齒科醫院 406 Sutter St. Cor. Stockton Mc Laud Bldg. Room 304 Tel. Sutter 7435 午日午前九時より午後五時迄

新茶 着荷 特別安賣 送料無料
御菓子 鑵入銘茶 各種 桑港ポスト街一六九九 御菓子司 松屋 電話ウエスト五三六六

醫院 草間醫院 1808 Bush St. (内院病港桑)
公認 醫院開業 スタンフォード醫科大學出身 ドクトル・オブ・メディシン
草間良男 元レーン病院助手
診察 午後一時より五時迄 日曜午前十時より十一時迄
時間 入院隨意 電話 フィルモア一九八六

桑港旅館組合船客送迎事務所 東洋觀光團 申込所組合旅館 十一月十九日さいべゝ丸にて出發 桑港旅館組合主催第七回 桑港旅館組合に限り出國稅納附の必要なし 本團長に限り出國稅納附の必要なし

桑港旅館組合船客送迎事務所 404 Pacific St., S. F. 電話ドグラス三七九四

桑港旅館 井木旅館 熊本屋 日本旅館 防長旅館 日本屋 富士ホテル 福岡屋 山口屋 北米旅館 田村旅館 近江屋旅館 日米ホテル 永本旅館 安藝ホテル 紀の國屋 名古屋ホテル 南海屋 廣島屋 エビスホテル ミカドホテル 加州ホテル

桑港 公認 産婆 村山なをみゑ 桑港ポスト街一六二四 電話フィルモア一七六一
公認 小林産院 妊婦、產婦、產後の養生 帝國大學產婦人科卒業內科醫學免許 桑港ブッシュ街一九五四 電話フィルモア三七〇七
公認 產婆 小林ちか

公認 倉本ひな 桑港ブッシュ街一九〇七 醫科大學出身 許產婆免 電話フィルモア一九〇四

英語教授 初學者、新渡航者、婦人及年少者の爲に最切敎授す 桑港ポスト街一五二八 電話ウエスト五七六八

公認 林產院 桑港ポスト街一五二八 電話ウエスト五七六八

公認產婆林イエ

公認 川口產院 姙產婦收容 內務省免許、加州公認產婆 桑港ブキャナン街一七一四 電フィルモア四九四七 川口藤子

大阪朝日 取次 桑港紀新聞 St. Bedeman St., San Francisco, Calif.

寺澤教館 二八一一街 電話フィルモア二二〇二

大阪藥店 郵送無料 公認調劑

新米 ＝お待兼ねの＝ 新米 ＝賣出し＝ フク印

▲千九百二十年產新米は品質非常に宜敷候
▲最寄食料品店にてお求め被下度候
▲弊店にては小賣を不致候

桑港 東洋貿易株式會社 精米部

Oriental Trading Corporation
San Francisco, Calif.

◎御婦人用 オバコート
羅紗無地色々 二十弗より
ベルベット又はブラシュ 五十五弗
毛皮付ブラシュ 四十弗より
特仕立 六十弗
百弗及び百十五弗以上

男女洋服卸小賣 雜貨輸出入 ふく組
本店 桑港ポスト街一八六三 電話ウエスト三四四
支店 同ナウスバーター一四〇 同 ナター三六一八
同 横濱市本町五丁目九〇番地

◎紳士用外套
特別厚地半裏 五十弗より
霜降オックスフォード 六十弗
總裏附 三十八弗より
黑、紺、茶無地 六十五弗
三十五弗より
五十五弗
御誂は四十五弗以上八十弗位迄